



「わん。」

たったひと言のせりふを言うために、君はステージに立ちました。ドンッと一発の太鼓を打つために、君は舞台の下で待っていました。まちがえたら歌が台無し…責任感に駆られて一生懸命ピアノを練習した君。出番が終わるとスポットライトにとりついて、主役たちを照らし続けた君。1学年40～50人で作る舞台。どの子ども、ステージで華々しくライトを浴びる時間はほんの一瞬です。そんな一瞬が積み重なって、素敵な発表会になりました。君の大切な役目を、君ががんばってくれたから、最高の舞台ができたのです。始まりから終わりまで、君の心のスポットライトは、君自身を照

らし続けていました。君と、君の仲間が作る舞台の主役として。

○ ぼくはたぬきの役でした。大きな声でせりふを言えました。どうやって楽しそうにえんぎできるか考えてやりました。練習のせいかはつきできてよかったです。(3年)

○ 最初とてもきんちょうして、後ろまで声がとどくか心配でした。でも、アナウンスをしたらきんちょうがなくなりました。歌は3人で歌い、音ていが外れていないか心配でしたが、なんとか歌えました。とても緊張したけど楽しかったです。(4年)

○ お父さんは仕事の休みをかえてでも来てくれたので、いままでにないようなすばらしいえんぎを見せないといけないと思ったり、妹がいるのにまちがえたらはずかしいなと思ったり。自分の番が近づくとつれてきんちょうしていきました。でも、みんなのすこいえんぎをお母さんやお父さんに見せることができ、とてもよかったです。(4年)

○ 今までやってきた劇の中で、「ワンダー」が一番達成感を感じて、一番みんなで楽しんだ劇でした。中でも、最後の「ともに」のダンスが一番達成感を感じました。自分のせりふもしっかり言えたいし、みんなが一番の演技をして、最高の劇を作ることができたと思いました。それでもやっぱりとても緊張しました。今まで練習したから大丈夫と思って、いざ自分のせりふになると心臓がすごくどきどきしました。せりふを言い終わると、ああもう終わりなのかと少しだけ残念な気持ちになりました。みんなでダンスを楽しくおどって、自分的には「日本一」の劇になったのではないかと思います。さあ、次は狂言です。これもまた最高の思い出にしたいと思います。(6年)



感動をありがとう

□ 学年が上がるほどテーマが大きくなって見応えがありました。娘が大きくなったとき、どんなテーマのものを表現するか楽しみです。一生懸命と元気のあふれる正則らしい1日でした。(2年保護者) □ 全学年、とてもよかったです。2・4年生はミュージカルを見ている感じでした。1年生はみんな声が大きくて、3年生はピアノ伴奏も子どもたちがやって感心しました。5年生は涙が止まりませんでした。6年生は考えさせられることが多くて、さすがだなと思いました。全体的にとってもクオリティが高い発表でした。(3年保護者) □ 今回の発表会は、今までの中で一番驚きやわくわくが大きくて、楽しんで観ることができました。2年後も楽しみにしています。(6年保護者)

□ どの子ども緊張していると思いますが、親の方も自分の子が出てくると、ちゃんとできるかどきどきです。終わったときは、親も子どもほっとしていると思いました。とても感動した半日でした。ありがとうございました。(6年保護者)